

授業をキャリア教育の視点で改善し、社会で生きる力を育む

東京都 荒川区立諏訪台中学校

荒川区立諏訪台中学校は、キャリア教育はあらゆる教育活動で行うものと位置付ける。中でも力を入れるのが、授業をキャリア教育の視点で見直し、指導の質を高めることだ。生徒が身に付けるべき力とその手段を明確にし、生徒の理解度や教師の指導力の向上を目指している。

●課題意識

若者たちの生きる力の低下に危機感

荒川区立諏訪台中学校は、目指す学校像に「全教育活動をキャリア教育の視点で捉え、基礎的・汎用的能力を育成する学校」を掲げ、日々の教育活動の改善に取り組む。その背景には、若者の生きる力の低下に対する、清水隆彦校長の強い危機感がある。

「現在、日本には約63万人ものニートがいるといわれています。景気の影響もあると思いますが、もし教育に問題があり、チームで

仕事が出来ない、課題解決力が身に付いていないという人が数パーセントでもいるとすれば、それには義務教育段階での責任もあるのではないのでしょうか。子どもが人間関係を築く力や課題解決力を身に付けられるように、教育の中身を見直すべきだと思います」

更に、清水校長が指摘するのが子どもたちの学力の変化だ。TIMSSやPISA(*1)のように数字に表れる学力は世界でも上位を維持しているが、「学習が楽しい」「学校での学習が将来の役に立つ」と答える子どもは割合は他国と比べて低い。

「今と変わらず、10年、20年前も私たち教

School Data

◎1998(平成10)年に開校。2012年度からキャリア教育の改革に着手。夜間の補習授業「諏訪台てらこや」を週1回実施するなど、基礎学力の向上にも努める。学校新聞に定評があり、内閣総理大臣賞などを受賞。



校長◎清水隆彦先生

生徒数◎438人 学級数◎13学級

所在地◎〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-36-8

TEL◎03-3891-6115

URL◎<http://www.aen.arakawa.tokyo.jp/SUWADAI-J/>

公開研究会◎2014年11月(予定)

師はそれぞれ信念を持ち、一生懸命に指導を行っていました。しかし、現実には、大学卒業間際になっても何をしたいのかが分からない、将来の目標が持てないという学生がいます。キャリア教育の視点を授業にも取り入れて、生徒が意欲的に学び、社会で生きる力を育むことが急務だと考えています」

一方、幅広い学力層を抱えるという学校独自の課題もある。同校は15年前に4校が再編されて生まれた学校で、生徒の学力や気質、保護者の教育に対する期待はさまざまだ。

「ただ宿題を出す、家庭学習時間の目標を設定するだけでは、必ずしも生徒は学びに向

*1 TIMSS…IEA 国際数学・理科教育動向調査、PISA…OECD 生徒の学習到達度調査

かいません。夢や希望を持ち、自分がどう生きていくのかというキャリアプランニング能力を身に付けることが、学ぶ意欲を加速させ、真の学力向上につながると考えています」

● 取り組みのねらい

基礎的・汎用的能力の観点で 授業内容を捉え直す

そうした課題意識の下、2012年度から、学校全体でキャリア教育の視点を取り入れた研究授業を年間15回以上行っている。13年度から2年間は「荒川区授業力向上プロジェクト事業研究指定校」となり、「社会人・職業人・地域人の育成」を目標に、授業改善を継続している。

取り組みの基本的な考え方は、キャリア教育で目指す「基礎的・汎用的能力の育成」という視点を授業に取り入れながら授業改善を行い、学力向上を図ることにある。

「キャリア教育」というと職場体験の実施などに目が向きがちですが、本来の目的は、キャリア形成の視点で全ての指導を捉えて、教育活動全体の質を高めていくことにあります。授業にキャリア教育の視点を取り入れるといっても、教科学習の要素を削るわけではなく、授業の理解度を高めるための授業改善の手法の1つとしてキャリア教育の視点を盛り込むのです。その結果、生徒の意欲や理解度が高まり、学力向上に結びつくことを最大の

目的としています」(清水校長)

研究授業では、授業を通じて身に付けたい力を焦点化するために、中央教育審議会で示された基礎的・汎用的能力に沿って、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」のいずれかを必ず盛り込む。それらを育成する手段として「人間関係形成能力」「ICT機器活用」「学校図書館活用」「外部人材活用」の4つの観点を設定し、これをマトリクスにして指導案に明示する(図1)。

● 授業に取り入れるキャリア教育の視点

ICTの活用で 課題対応能力を高める

研究授業は年間15回以上行い、教師全員が必ず1回は授業を行う。例えば、1年生で研究授業を行う場合は、2・3年生の教師は分担して1年生の各教室に入り、該当の授業を参観する。そして、授業後には、指導案のマトリクスを見ながら、授業者と参観者が授業の良かった点、改善すべき点などについて意見を交換する。授業でどのように基礎的・汎用的能力を育成しているのか、4つの観点ごとに具体例を見ていく。

① 人間関係形成能力(協議型授業)

人間関係を構築する力の育成については、グループワークや発表を取り入れ、話し合い活動や討論型理科実験などを行う。例えば、



荒川区立誼訪台中学校校長
清水隆彦 しずみ たかひこ
「先生方には、全ての生徒と一緒に考えられるような、良質の問いを授業で投げ掛けてほしい」



荒川区立誼訪台中学校
研究主任。英語科担当。「授業では、どの生徒も分かりたいと願っていることを忘れずに指導したい」
山崎 聡 やまざき さとる

美術科では授業におけるキャリア教育の視点を、「色と形とイメージについて自分なりの考え方をもち、表現する力の育成」「作品を自分の価値観で鑑賞できる力の育成」と規定した。その上で、授業では色や形の効果を理解しながら言葉や作品で表現したり、作品から受けるイメージを批評的な視点で発表・記述したりする活動を行い、人間関係形成能力や言語力・表現力の向上を図っている。

② ICT機器活用

電子黒板やタブレットPCを活用し、授業内容の理解度の向上と、ICT活用能力の向上を図る。例えば、体育科の跳び箱の授業では、タブレットPCで模範演技を見せた後、生徒が跳んでいる様子を撮影し、教師と一緒に動画を見ながら改善点をチェックした。このようにして、自己理解・自己管理能力や課題対応能力を育てようとしている。

英語科では、生徒がインターネットで英文法の解説サイトを探してノートにまとめる調

社会を生きる力を育む——キャリア教育の視点で教育活動を捉え直す

図1 基礎的・汎用的能力育成に関する手段と目的のマトリクス(例)

英語科学習指導案 1年生

1 教材・単元名

省略

2 単元の目標

- 好きなことの紹介の仕方を知る
- have / like / playなどを理解し、使う
- 好きなものや好きなことについて説明する

3 キャリア教育の観点

「人間関係形成・社会形成能力」は「多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることが出来ると共に、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することが出来る力である」と定義されている。英語の授業では、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等の育成を意識して指導している。

グループ	授業の手段			
	人間関係形成能力 (協議型授業)	ICT機器活用授業 (電子黒板、 タブレット活用授業)	学校図書館活用授業 (学校図書館活用授業)	外部人材活用授業 (教科、キャリア専門家)
基礎的・ 汎用的能力				
目的				
人間関係形成・ 社会形成能力	○ 相談、発表活動			○ ALT
自己理解・ 自己管理能力	○ 発表活動		○ 資料選定	
課題対応能力	○ 発表活動	○ ICT機器での例示	○ 発表活動	
キャリア プランニング能力				

「基礎的・汎用的能力の育成」に特に関連する外国語(英語)科の指導内容

言語活動 としての話題	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
自分の気持ちや身の 回りの出来事などの 中から、簡単な表現 を用いてコミュニ ケーションを図れる ような話題を取り上 げる	《聞くこと》 ・まとまりのある英語を 聞いて、概要や要点を 適切に聞き取ること 《話すこと》 ・聞いたり読んだりした ことなどについて、問答 したり意見を述べ合っ たりすること	《聞くこと》 ・質問や依頼などを聞 いて適切に応じること 《話すこと》 ・伝言や手紙などの文 章から書き手の意向を 理解し、適切に応じる こと	《話すこと》 ・与えられたテーマに ついて簡単なスピーチ をすること ・つなぎ言葉を用いる など工夫をいろいろし て、話を続けること	《読むこと》 ・書かれた内容や考え 方などを捉えること 《書くこと》 ・感想、賛否やその理 由を書いたりすること ・聞いたり読んだりした ことなどについて、自分 の考えや気持ちを書く こと

※文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』より

*同校の資料を基に編集部で作成

ベ学習、文書作成ソフトやプレゼンテーショ
ンソフトのスペルチェック機能を利用して、
より正確な英文を作る練習などに活用した。
研究主任の山崎聡先生は効果をこう話す。
「手書きでは教師は三単現のSを直すだけ
で手一杯で、単語の間違いまで直されませ
んでした。パソコンを利用することで、より
正確な英文を効率的に学ばせることが出来た

「膨大な本や資料の中から
「調べ込む経験」も大切
③学校図書館の活用
学校図書館の利用は、同校が最も力を入
る取り組みの1つだ(写真1・2)。英語科で
は、図書館で好きな本を選び、英語で紹介す
る



写真1 図書館では、学校図書館司書を中心に図書の並べ方や書籍の紹介、室内レイアウトなどを工夫して生徒の活用を促している。年間利用者は3年間で、延べ1万2000人から1万6000人に増えた

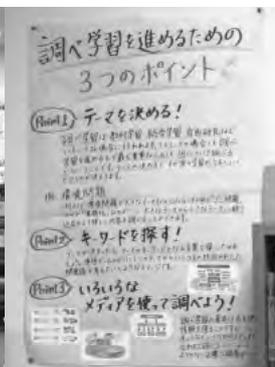


写真2 図書館には、「調べ学習を進めるための3つのポイント」が掲げられている

る活動を行う。学校図書館司書と教科担当が
協同して書籍での調べ学習を行う「コラボ
レーション授業」も各教科で行われている。
「情報活用能力を高めるには、インターネッ
トを活用するだけでなく、『調べ込む経験』
が重要だと考えます。インターネットで検索
してばつと情報を得るのと、膨大な文献資料
の中から自分で必要な情報を探し出す作業は
全く違います。同じ情報にたどり着くとして

も、本を読みながら調べるといふプロセスそのものが、社会人に必要な情報活用力を育むのではないでしょうか」(清水校長)

例えば、世界の気象状況を調べる時、気象に関する本を片っ端から探してみる。答えは見つからなくても、次に何を調べればよいのかを考え、仲間と協同して調べ、物事を掘り下げていく体験は、単なる情報活用能力にとどまらない知の探究へと生徒を誘う。

④外部人材の活用

TA(*2)や地域の協力を得て行う授業も頻繁に行う。例えば、英語科では大学生のTAを3人入れ、ALTと合わせて5人で授業を行ったり、理科ではゲスト・ティーチャーを招いて実験を行ったりしている。地域や社会、産業界と連携し、生徒に世の中の実態を伝え、学校での学びや進路選択への気付きを与えようとしている。

「授業の手段としたこれらの4つの観点は、部分的には多くの学校で行われていると思います。ただ、大切なのは、これらがキャリア教育の視点になると意識して授業を見直すことだと考えています」(清水校長)

●職場体験の工夫

勤労留学を学校生活の改善に結び付ける

授業におけるキャリア教育のほかには、勤労留学(職場体験)や校内ハローワーク(職

業人講話)を実施している。いずれの取り組みも、仕事内容を知ることが主目的としていないのが、同校の特徴だ。

5日間の勤労留学では、仕事の身だけでなく、働くことの大変さ、社会人として身に付けておきたい力を実感させることをねらいとしている。「約束通り仕事が出来なければ厳しい指導を受ける」「単に話すのではなく相手に分かるように伝える」といった体験を通して、社会の一端を知る。それらの経験を学校生活に結び付け、今、何を努力し、生活をどう見直すべきかを考えさせるのが最終的な目的だと、清水校長は語る。

「体験先の上司が言うことや働く上でのルールが、実は学校の先生が話す内容と同じであることに気付く生徒もいます。社会で求められることと、学校生活で求められることは実はつながっている。そこに気付き、日々の学校生活を大切にしようとする気持ちが大きくなることを期待しています」

勤労留学で重要なのが、事前事後の指導だ。単に「良かった」「出来なかった」という感想ではなく、勤労留学でどのような気付きがあったのか、何を学んだのかを、生徒が焦点化することこそが必要と考える。そのため、勤労留学前には、キャリア・コーディネーターによるマナー研修を行い、事後は振り返りの作文を書くほか、三者面談を行う。勤労留学で気付いたことを担任や保護者と話し合い、

そこで得た体験を日常生活にフィードバックできるように意識化させている。

校内ハローワークで働くことへの視野を広げる

ゲスト講師を招いて自分の仕事について語ってもらう「校内ハローワーク」も、趣旨は勤労留学と同じだ。話の内容は、仕事の中心が半分ほどで、中心となるのは仕事のやりがいや、中学校時代に頑張っておきたいことだ。「約束の時間に1分でも遅れると仕事はなくなることもある。学校の宿題も1日くらいなら遅れてもよいという考えは、社会では通用しない」。そうした話を社会人から聞くことで、学校生活の意味を再確認する。

勤労留学や校内ハローワークでは、生徒が知らない職業と出合い、視野を広げることも重視する。13年度の校内ハローワークでは、弁護士や医師、企業経営者、新聞記者など幅広い業種の講師を招いて30講座を設けた。生徒は1人3講座を受講するが、生徒自身が選べるのは1講座で、あとの2つは抽選で決まる。今はまだ興味がない、または知らない仕事に就く人の話を聞いて、視野を広げると共に、どのような仕事にもやりがいがあることを生徒に感じてもらいたいからだ(図2)。

例えば、女子生徒がプロ野球関係者の話を聞きにいき、男性の仕事であると思っていた職場に、女性が多く進出していることを知る

*2 Teaching Assistant の略

社会を生きる力を育む——キャリア教育の視点で教育活動を捉え直す

図2 校内ハローワークを受講した感想

- **機械エンジニア受講** (3年生女子) …「機械エンジニア」という意味も知りませんでした。私は機械に触るのも苦手で、機械に興味がなかったのですが、今回の話を聞いて、「機械エンジニア」の素晴らしさが分かりました。
- **会社経営受講** (3年生男子) …社長さんのイメージが変わりました。物事を判断することが大事だということが分かりました。社長はただ偉そうにしているのではなく、社員の方をしっかりとめる大変な仕事だと分かりました。
- **映像ディレクター受講** (1年生女子) …映像は、人の心を動かせるものだと分かりました。人を喜ばせることや、作品を「一生の宝物」と言われてみたいと思いました。
- **クッキーソムリエ受講** (1年生女子) …母も同じことを言っていました。食事は自分のために作ろうと思うとあまりおいしく作れない。人のためにおいしく思っていることが大切だと分かりました。
- **ライター受講** (3年生男子) …いろいろ「やってみる」ことの大切さ、「人との出会い」を大切にすること、プラス、マイナスがあっても「自分の可能性」を信じてこれからも頑張りたいと思いました。

*同校の資料を基に編集部で作成

「この取り組みは社会形成能力の育成につながる」「課題対応能力が高まっている」など、キャリア教育に関する内容が話題に上るようになった。同校では、文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』を教師一人ひとりに配布

した。付せんやマーカーだらけになるほど読み込む教師もいるという。研究授業以外の普段の授業も変わりつつある。グループワークやタブレットPCを活用し、人間関係形成能力や課題対応能力の向上に努める教師が増えており、清水校長も「今までの授業とは構成が変わりつつあることを肌で感じています」と評価する。

キャリア教育の改革により、生徒の意識に変化が表れつつある。毎年実施する荒川区の生徒アンケートでは、意欲的に学ぶ姿勢が徐々に身に付いているという結果が出ている。また、「マーケティングの仕事をしたい」というように、将来の夢に具体的な仕事内容を掲げる生徒も現れ始めている。「この先、希望は変わるかもしれませんが、一時でも広い視野を持つことは、その後の進路選択においてプラスになるでしょう」と清水校長は評価する。

「キャリア教育の成果はすぐ目に見えるような形で表れるものばかりではありません。キャリアの視点を取り入れて授業が変わり、それによって少しでも生徒が授業を理解できるようにになれば、それだけでも大きな成果でしょう。本校でも全ての先生の授業が変わったといえるところまでは進んでいません。更にキャリア教育の意義を浸透させ、教育の質を高める努力を続けていきます」(清水校長)

こともある。抽選で仕事を選ぶのは勤労留学も部分的には同じで、女子生徒が旋盤工場に行って職人と一緒に働くこともあるという。勤労留学や校内ハローワークを効果的な活動にするポイントの1つは、キャリア・コーディネーターの活用にあるという。13年度の校内ハローワークでは、コーディネーターの協力を得て多様な業種の講師を招くことが出来た。ただ、取り組みはあくまで学校主導で行うべきだと、清水校長は強調する。

「プロの力を借りる時、往々にして全てを任せてしまうことが学校ではよくあると思います。しかし、プロは、あくまで学校を支援する立場であり、教師が主体となって取り組まなければなりません。また、コーディネーターが学校に来ることは、教師の研修にもなると考えています。各業界のプロとの協同作業を通して、表現や指導の仕方、話しぶりなど学ぶべきことがたくさんあるはずですよ」

● 成果と課題

キャリア教育の視点が日常の教育活動にも浸透

現場の変化は教師自身も実感している。「英語科では、以前から生徒同士の学び合いを大切にしてきましたが、『英語を通じてどんな人を育てたいのか』という視点で授業を組み立てるようになりました。また、勤労留学の受け入れをお願いする際は、ただリストの上から順に電話を掛けるのではなく、実際に教師が出向いて一社一社交渉に当たりました。最初は緊張しましたが、向き合って話をする中で取り組みの趣旨を理解していただくことができ、私たちの社会性も高まったのを感じます」(山崎先生)